

## 第12回滋賀県自治創造会議での議論概要

1. 日 時 平成24年4月10日(火)14時～17時
2. 場 所 竜王町防災センター 2階大会議室（蒲生郡竜王町小口1627）
3. 出席者 知事、16市町長(欠席…草津市長、豊郷町長、多賀町長)  
[説明員] テーマに関係する県の部長等  
(防災危機管理監、総合政策部長、琵琶湖環境部長、土木交通部長)

### 4. 概 要

#### (1) 関西広域連合と国出先機関改革について

##### 【知事提案概要】

- 地域主権改革の原点は「近接補完」の原理であり、基礎自治体の役割を強化し、住民自らの判断と責任において地域の課題に取り組むことにある。
- 今回の改革は、国出先機関の機能を廃止するのではなく、国のガバナンスから地方のガバナンスに変えることである。

##### 【近江八幡市長提案概要】

- 国、県、市町村の間に広域連合が出来れば4つの多重行政となり行政の簡素化と逆行しないか懸念する。
- 河川や道路の基幹インフラの整備・災害対応面で、市町村への負の影響を懸念する。
- 国・府県の枠組みを残したまま、国出先機関を広域連合に移管することが真の地方分権と言えるか疑問であり、時間をかけて慎重に議論を進めてもらいたい。

##### 【野洲市長提案概要】

- 井戸連合長は「現在の出先機関と基礎自治体との関係が、そのまま広域連合と基礎自治体との関係に置き換わる。」と説明されているが、それなら移管する必要はない。
- 常勤職の設置や事業の箇所付けを第三者委員会に諮るなどの仕組みにも疑問点があり、一緒に議論したい。

##### 【知事発言概要】

- 平成18年からさまざまな権限移譲が進められており、今の議論はその延長にあるものであり、府県を超える領域の行政の受け皿を作ろうとしたのが今回の関西広域連合。
- 分権化の方向性について意見交換したい。

##### 【市町長発言概要】

- 分権は否定しておらず、関西広域連合という4層目を作ることを懸念している。
- 財源を国に求めるのではなく、徴税権を持つという気概が必要である。
- 小規模自治体や地方都市の意見をどうくみ取るか明示された上で議論したい。
- 災害対応・危機管理に広域連合で対応できるのか。誰が指揮をして何をするのか具体論を説

明されたい。

○道州制も一つの方向として議論をやっていくべきだ。

#### 【知事発言概要】

○徴税権を持つところが代表権を持ち、自治を進めるのが望ましい方向だと考えている。

○具体論があった方が府県を超える行政のイメージがしやすいとの意見には、できるだけ早く対応したい。

○災害対策について、国の出先機関の機能は広域連合に残る。また、広域連合から要請をさせてもらうことで全国的な支援も可能となる。

#### 【市町長発言概要】

○市民生活にどう影響するか、どんな利点があるかをもっとわかりやすく、もっと端的に説明されたい。

○関西広域連合に丸ごと移管された後、基礎自治体にどれだけ権限・財源が移譲されるのかの議論が欠けている。

○関西だけでなく、中部圏との連合なども視野に入れてもらいたい。

○基礎自治体論について、町村は市とは一緒ではない。

○地方分権は大事だが、国が責任を持つべき部分を押さえ、丸ごと移管についても丁寧に議論されたい。

## (2) 原子力発電所の再稼働について

#### 【野洲市長提案概要】

○政府のやり方は拙速だが、県は再稼働に関与するなら、どういう体制や判断基準でのぞむのか。原発を止めることだけでなく危険な燃料棒をどうするか、地域経済をどうするのか。

○滋賀県が行った放射性物質拡散のシミュレーションのモデルは何か、再現性はあるのか。琵琶湖が汚染された場合はどうなるのか。

○信頼におけるチェック体制と検査体制を滋賀県が確立すれば、電力会社も話を聞かざるを得ないはずだ。

#### 【東近江市長提案概要】

○知事は、福井県と同様に責任を持って再稼働の同意が出来るような権限をきちんと求められたい。

○安全には安全を重ねて再稼働を考えるべきであり、今の関西電力に非常時の備えがあるとは思えず、常に危険性を持っている原発を動かしている自覚が見受けられない。

○安全が十分に認識できる状況になるまでは止めてもらいたい。

#### 【知事発言概要】

○再稼働に対する県の判断基準は3つある。技術的な安全性、社会的信頼、電力の需給構造で

ある。化石燃料の高騰、雇用の喪失等について検討すべきと思っており、関西広域連合からも関西電力に対して需給構造を示すようお願いしている。

- シミュレーションモデルは、あくまで模擬実験の結果として理解願いたい。
- セシウムが琵琶湖に降り注いだ時の影響のシミュレーションを指示しており、飲み水についても、万一の時にどうするかの情報を集めて準備するようにしている。

#### 【市町長発言概要】

- 国は十分な立証責任を果たしておらず、現時点では再稼働に賛成できない。
- 県民の不安を払拭しようとする努力はよくわかる。大飯原発にも近いことから市民の不安があり、県に頑張ってもらいたい。
- 市町では情報収集や技術力の点で難しいことから、県に協力願いたい。
- 新たなエネルギーが確保出来るまでの一定の期間は原発は必要かなと思うが、現時点での再稼働は問題がある。国の情報そのものに不信感をもっている。
- シミュレーションを出すことで、かえって市民に不安を与えないように注意されたい。
- 再稼働の同意に至るまで、市町と協議し連携を図って対処されることを県に要望しておきたい。
- 再稼働の判断に関与するなら責任を負う体制が必要であり、客観的な検討や判断ができるべき。社会的、経済的影響を含めて評価をしたうえで判断されたい。
- 安全協定を結ぶことが県民の安全安心につながる。

#### 【知事発言概要】

- 大飯原発については、市長会や町村会を通じて情報共有を図りたい。
- 原発再稼働に対する地元自治体の同意については国に言い続けていきたい。
- シミュレーションは不安をあおるためではなく、リスクコミュニケーションをきちんと行うために示しているもの。
- 再稼働のための審査・体制については、専門家委員会を早急に立ち上げたい。

### (3) 琵琶湖を生かした滋賀らしい活性化策の推進について

#### 【守山市長提案概要】

- 琵琶湖の環境はまだ改善が必要であり、滋賀県全体で取り組んでいく枠組みが求められている。各種の調査結果や取組が情報共有されておらず、課題をどう解決していくかを共に考える協議の場を提案したい。
- 滋賀県の観光の方向性として、湖上交通を活用した観光振興が必要不可欠と考えており、県、市町、事業者で協議会等を立ち上げ、新たな航路設定や観光の広域コースの設定、採算性などの具体の議論を始めたい。

#### 【知事発言概要】

- マザーレイク 21 計画第 2 期の策定段階には、市町からもいろんな意見を聞かせていただい

ている。計画実現のためにも、具体的に市長会や町村会で議論いただき、実現する仕組みを提案いただきながら前に進んでいきたい。

○マザーレイクフォーラム等は住民参加で動き出しており、マザーレイクフォーラム市町編ができれば強力な推進母体になるだろうと期待している。

○湖上交通は琵琶湖の一番の価値と思っている。民間の定期航路等、観光のトータルな計画がないので、県で「琵琶湖・湖上交通推進プロジェクト」を作っており、市町から具体的なプロジェクトを提案いただきながら取り組みたい。

#### 今後の滋賀県自治創造会議の持ち方について

事務局（県自治振興課、市長会事務局、町村会事務局）から提案されたたたき台（①首長同士が率直に懇談、議論するスタイルはそのまま残しつつ、②県や市町の担当部課があるテーマについて協議を積み重ねてきたものを、副知事と副市町長による調整会議で諮った上で、最後に自治創造会議で一定の意見集約を行う）に対してさまざまな意見が出されたが、この方向で再調整することとなった。